

## 15 年度第 3 四半期決算 電話説明会 質疑応答要約

Q) 第 3 四半期の営業利益は意外と良かったように見えるが、社内計画と比較するとどうだったのか？

A) 営業利益は、社内計画に対しては相当程度上振れた。この上振れはほぼ全てが P&S 事業によるもので、他の事業は概ね計画線だった。P&S の上振れは、売上構成が利益に対してポジティブだったことや、経費執行の遅れ、コストダウンの効果によるもの。

Q) 第 3 四半期の実績と比較すると、第 4 四半期の見通しが大きく悪くなることになるが、どういう前提なのか？

A) 前年の第 4 四半期の営業利益 117 億円に対し、今期は 36 億を見込んでおり、大きく減益となる。最大の要因は M&S 事業の減収、中でも、IT 関連向けの需要が急減した産業機器が大きく減収になることで、42 億円の減益となる見通しとしている。また、前期はなかったドミノ事業も、のれん償却等で 12 億の赤字となるうえ、ユーロ円の水準を円高に見ている影響も 15 億円程度の減益要因になると見ている。

Q) 産業機器の非 IT 顧客向けは、今後順調な拡大が見込めるのか？

A) 国内の自動車関連顧客向けについては、需要も安定しており、ある程度の期待は出来ると思うが、中国を含む外需向けの回復の時期については不透明な部分があると思っている。

以上